

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	多様な主体の連携・協働保護・保全(広域交流促進型)
手法名	アダプト制度による虹の松原の保全再生と活用
主体	虹の松原保護対策協議会 特定非営利活動法人唐津環境防災推進機構KANNE
背景(地域の課題)	<p>佐賀県唐津市の虹の松原は日本の三大松原の一つに数えられ、国の特別名勝にも指定された風光明媚な景勝地である。</p> <p>この松原は約400年前に植林によって生まれたが、住民が煮炊き等の燃料利用のため恒常的に松葉掻き等を行うことで、白砂青松の景観が保たれてきた(図1)。</p> <p>しかしエネルギー革命以後、松葉の燃料活用がなくなったことで、人の手が入らなくなり、土壌の富栄養化が進んで広葉樹への遷移が始まったり、松くい虫被害が顕著になるなど(図2)、松原の本来の機能や景観の喪失が危惧されている。</p>
手法/方策の詳細	<p>平成20年9月、九州森林管理局と佐賀県、唐津市が虹の松原の保全再生のために連携・協働を強化することに合意。これを受けて、虹の松原保護対策協議会が設置され、NPO法人唐津環境防災推進機構KANNEに保全再生活動事業を委託して取組を進めている。</p> <p>1)保全活動の参加方法 保全活動の参加方法として、一定の区画を受け持ってもらい取り組むアダプト参加方式と一斉に呼びかける時に参加するイベント参加方式の2方式を準備している。</p> <p>2)虹の松原におけるアダプト制度 団体・個人ごとに一定の区画を割り当てて保全活動を行ってもらうもの。団体の人数によって面積が変わるが、1時間あたり1人=1畳分の面積で算出している。活動回数は年に4回程度としているが、各団体の都合に合わせて変動する。平日・土日問わず好きな日の好きな時間に取り組むことが可能となっている。</p> <p>3)保全活動方法 松葉掻きの道具や収集用の袋などはKANNEで準備する(図3)。 ①枯れ枝、松ぼっくり、ゴミを分類し収集 ②残った松葉を掻いて収集(図4) ③集めたものをそれぞれ袋やリヤカー等で所定の位置に集積</p> <p>4)残さの活用 松葉などは地元タバコ農家の苗床や堆肥などに利用されている。また、近年では燃料に活用することなどを模索している。</p>
手法・技術的視点	現在5,700人・154団体の参加があり、アダプト制度を導入することで、企業や学校など地域内外のより広い層の人々の保全活動への参加を実現しており、着目される。

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<h3>▼再生・保全活動における関係機関の役割</h3>
<p>図・写真資料</p>	<p>図1: 健全な白砂青松の松林</p> <p>図2: 広葉樹に遷移しつつある状況</p> <p>図3: 保全活動で使用される道具類</p> <p>図4: 保全のため松葉掻きを行う人たち</p>
<p>参考資料</p>	<p>平成25年度里なび研修会in佐賀県唐津市パワーポイント資料「虹の松原の再生・保全活動について」(特定非営利活動法人 唐津環境防災推進機構 KANNE)</p>